

取組名称	縄文の時代から続く阿蘇の草原を次の世代に残すために ～1000人の有志と取り組む、野焼き支援ボランティア活動～			団体設立後の経過年数	28年
応募取組主体名称	公益財団法人 阿蘇グリーンストック	活動地域	熊本県 阿蘇地域	応募取組の活動年数	24年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門 (概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください) / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨	阿蘇の草原には多くの絶滅危惧種が生息・生育し、中には阿蘇でしか確認できない種もいるなど、日本の生物多様性保全上重要な地域です。しかし草資源の利用価値の低下や、地域の少子高齢化によりその維持が困難になっています。地域住民だけで実施することが難しくなった野焼き等の草原保全活動を支援するためにボランティア団体が組織され、地元の要請に応じてボランティアを派遣し、活動を支援することで、阿蘇の草原保全に寄与しています。
実績の要旨	1999年に始まった野焼き支援ボランティア活動は、これまでに4.2万人を超えるボランティアが参加し（2022年度実績：延べ2238名）、地域住民の努力だけで維持が難しくなった草原保全の在り方に変革をもたらしました。地域外の人も草原保全に参加できる基盤ができ、またその基盤をもとに地域への支援活動を円滑に行えるという点で、新たな環境保全の在り方を示しています。また、ボランティアの皆さんへのモチベーションUPのために、イベントや参加特典を設けるなど、ボランティア同士の交流促進（新たなコミュニティの形成）にも力を入れています。

取組評価の要旨	環境への貢献	阿蘇の草原は生物多様性、水源涵養機能、炭素固定機能による温暖化抑止など多様な生態系サービスを提供しています。
	社会・経済への貢献	縄文の時代から続くとされる草原を継承することで、地域文化を保全するとともに、九州有数の観光資源としての景観保全にも役立っています。また、上記生態系サービスのうち特に水源涵養機能により熊本には半導体産業の集積が顕著であり、地域の恵みを都市が享受しています。
	地域資源の活用	草原という阿蘇の資源を活用した取り組みであるとともに、その地域資源を保全するための活動として地域の役に立っています。また私たちが維持する草原で放牧されるあか牛は地域の特産品として人気があるほか、近年では茅葺きの材料としての茅採取も需要が高まってきています。
	普及・汎用性	個人会員が年々増加し1000名を超えています。さらに近年では企業との連携が進み、従業員がまとめて会員になる等の動きがあり、県内企業を中心に、さらなる普及が見込まれます。
	革新・ユニーク性	地域活動を支援するという基本原則が地域から受け入れられているほか、地域側の7つの行政や約70の草原所有者、ボランティア1000名といった多くのステークホルダーをまとめて各種活動をしている点がユニークであると考えています。
	継続性	もはや阿蘇地域の草原保全にはなくてはならない存在であるとともに、今後さらに草原の多面的な機能を広く訴えていき、新たな企業・個人の協力を得て、より社会的、経済的にも継続できる組織として活動していきたいと考えています。

展望の要旨	阿蘇の草原保全という行為が、「自然を生かしながら守る」サステナブルなものだということがより多くの国民に認知され、草原を維持していきたいという個人や団体が増加して、いろんなアイデアをもとに草原を生かし守る取り組みが広がっていく世の中を夢見ています！
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------